

# 山梨県介護助手等普及推進事業

## 成果報告

社会福祉法人 奥湯村福社会  
特別養護老人ホーム 奥湯村園

# 取組の目的

---

## 人材の定着や確保

- ・現場ではスキルや知識のある介護職員に負荷が集中しやすい傾向があり、それが離職につながることもあった。そのため、介護職員間のスキルや知識の平準化を図る必要があった。（介護記録の取り方などにも差があった）
- ・同時に慢性的な人手不足であったため、介護サポーター雇用を検討した。直接業務と間接業務を細かく切り出し、直接業務での専門性、マンパワーを維持しつつ、間接業務の一部を介護サポーターに担ってもらうことでサービスの質の維持向上を図った。

## 取り組みの流れ

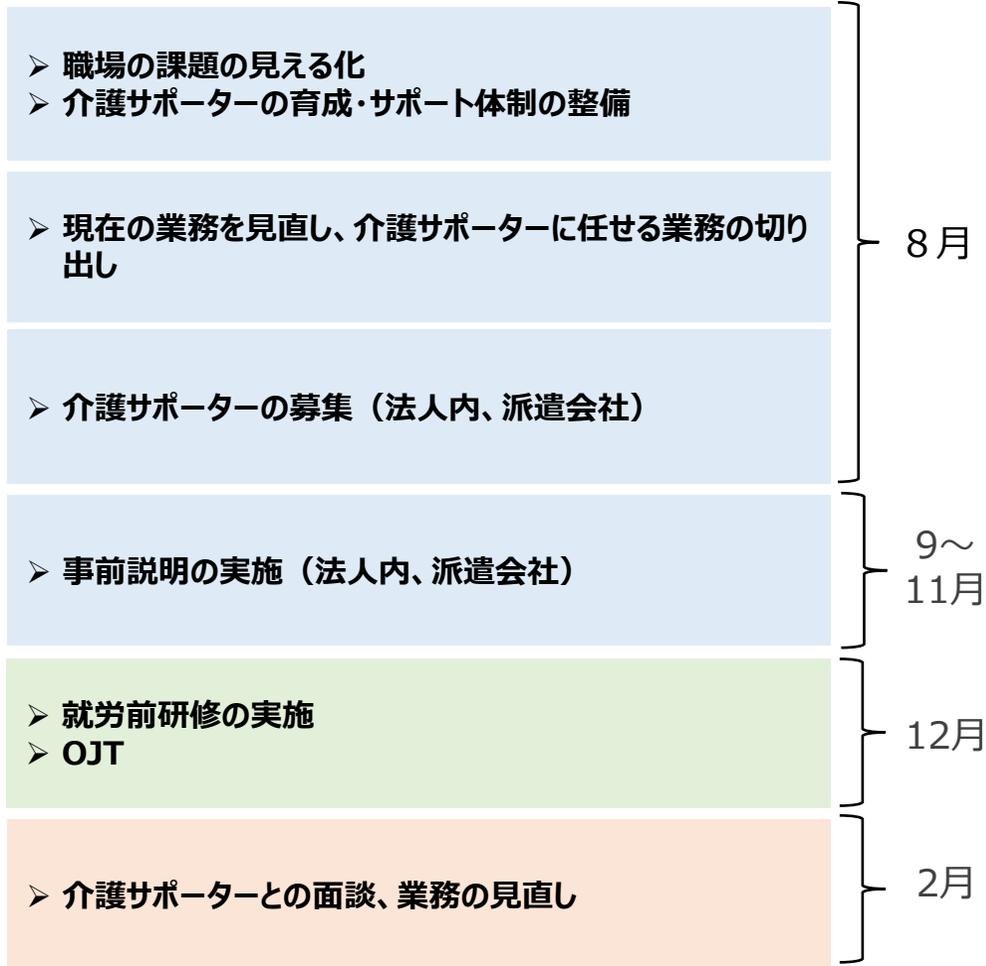


# 取り組み全体の流れ

## 標準的な手順



## プロジェクトの流れ



# 手順 1 : 受入体制

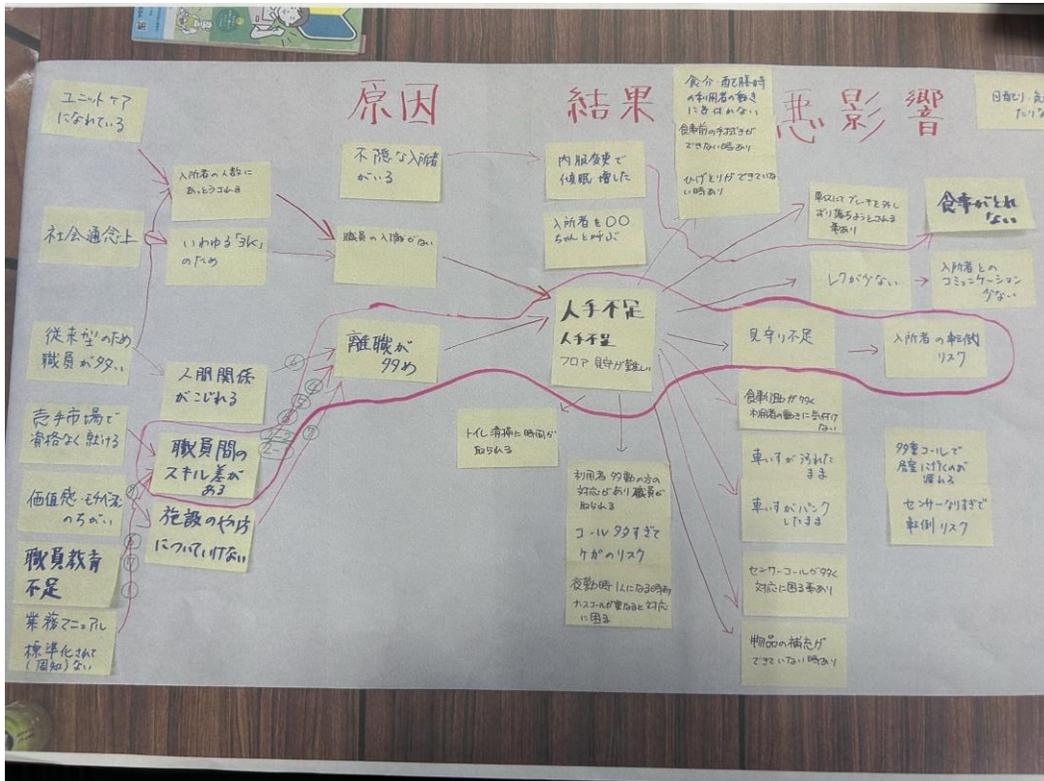
## 組織全体での合意形成

全特養職員が個々のスキルアップを目指し、人手不足の中にあってもサービスの質を維持向上するために、業務内容を見直し、介護サポーターを導入する。

## 実施体制の整備

プロジェクト会議を立ち上げた。  
メンバーと役割は、  
施設長：全体の進捗管理及び取りまとめ  
介護主任：受け入れ体制管理・業務管理  
事務長：雇用条件・求人管理  
介護リーダー：現場指導

# 手順 1 : 受入体制 (現場の課題の見える化)



**深堀原因** : 職員間にスキル差があること (業務負担に偏り) に対し、

**業務改善の取組 (打ち手)** : 介護サポーター導入より業務の明確化と役割分担を行い、併せてOJTの仕組みづくりと研修機会を設けることを実施することにより

**好転換された深堀原因** : 職員間のスキル差の軽減となり、

**原因** : 離職が多めという問題が解消・軽減され

**結果** : 人手不足がなくなり、

**悪影響** : 入所者の転倒リスクの改善が期待できる

## 手順 2 : 業務の切り出し

大項目	#	カテゴリー	作業単位	専門性	詳細
I 基本動作	2	移動・誘導（屋内）	23	C	共有スペースにおける見守り
II ADL関連	7	オムツ交換	73	C	オムツ、トイレトペーパー等の補充
	10	食事・おやつ・水分補給	103	C	下膳（薬飲み忘れチェックも）
VI その他業務	28	掃除・洗濯	283	C	テーブル拭き、床清掃、ごみ出し、洗濯・乾燥、布団干し
	29	ベッドメイキング	293	C	ベッドメイキング

## 手順2：業務の切り出し（実行計画の策定）

	KPIを設定する文節	設定したKPI	KPIの測定方法	KPIの測定ピッチ
1	スキル差	介護職としての専門性	アンケート調査	導入前に1回／導入後の検証
2	業務の偏り／負担の重荷	業務の平準化	アンケート調査	導入前に1回／導入後の検証
3	離職（人手不足）	離職率	離職率の測定	4半期に1回
4	ケアの質（事故のリスク）	適切なサービス提供	アンケート調査／事例検証	導入前に1回／導入後の検証

## 手順3：募集

介護サポーター募集を検討している段階で以下の経緯があった。

### 法人内にて

年配の介護職員より、フルタイムからパートへの切り替え希望の申し出があった。

### 派遣会社より

パートで間接業務希望者の紹介があった。



新たな募集は行わず、それぞれを介護サポーターとして雇用することを検討

## 手順4:事前説明・面談

- ・事前説明での資料作成（業務内容等）。
- ・業務内容・時間等を説明し、本人の意向を確認しながら面談を行った。

時間・曜日	月曜日	木曜日	土曜日	日曜日
9:00	ホール片付け トイレ誘導後の洗濯 エプロン干し	ホール片付け トイレ誘導後の洗濯 エプロン干し	ホール片付け トイレ誘導後の洗濯 エプロン干し	ホール片付け トイレ誘導後の洗濯 エプロン干し
10:00	入浴者の誘導・洗濯 見守り 洗濯・乾燥 食事前の準備	入浴者の誘導・洗濯 見守り 洗濯・乾燥 食事前の準備	水分の下膳 レクリエーション補助・見守り 食事前の準備	水分の下膳 レクリエーション補助・見守り 食事前の準備
11:30	休憩	休憩	休憩	休憩
12:30	下膳 ホール片付け 見守り 洗濯	下膳 ホール片付け 見守り 洗濯	下膳 ホール片付け 見守り 洗濯	下膳 ホール片付け 見守り 洗濯
14:00	居室のトイレ掃除 洗濯の片付け 入浴準備	居室のトイレ掃除 洗濯の片付け 入浴準備	居室のトイレ掃除 洗濯の片付け	居室のトイレ掃除 洗濯の片付け 入浴準備
15:00	退社	退社	退社	退社

\* 空き時間に整理整頓・利用者の衣類整理

## 手順5:雇用・就労

### 2名の介護サポーターを雇用

- ・Aさん 週3回 9:00~15:00
- ・Bさん 週4回 9:00~15:00

介護職員には業務の切り分けについて等を、月1回開催する職員会議で報告、周知を行った。

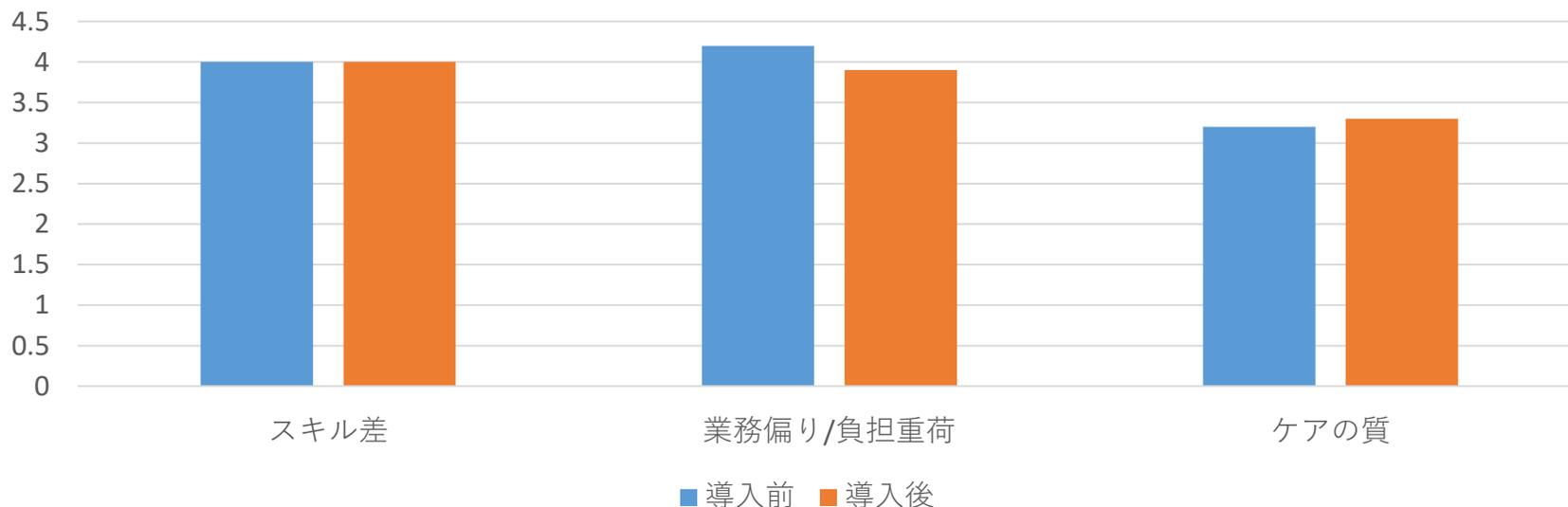
### 就労支援・見直しについて

- ・OJTにおいて作業マニュアルに従って、担当職員が指導した。
- ・採用1ヶ月後に業務内容の見直しを行った。



## 手順6:振り返り

導入効果アンケート（課題あり平均点）



それぞれのKPIについて導入効果アンケート（5点満点）を行った結果、導入効果が見られたのは、「業務の偏り/負担の重荷」で「スキル差」と「ケアの質」については、あまり効果が見られなかった。「離職」「事故のリスク(事例検証)」については現在測定中。

## まとめ



## まとめ

- ・取組を通じて得たことは、業務の切り分け、棚卸をすることで、多様な働き手を業務に組み込むことができ、結果として業務負担（感）を減らすことができると分かった。

- ・事業所としての今後の方針

今後は、職員個々のスキルアップをいかに適切な方法で効率よく行うかが課題であり、それに向けた教育システムを構築していく予定。